

山本充君 BOXに協力

石川友意君 久しぶりのホームクラブです。山本先生の卓話楽しみです。

1994～95年度地区協議会に出席して

次年度ライラ（RAC）委員会 堀川正幸さん

○9月は青少年活動月間です。

青少年奉仕委員会Aがインターアクト、ライラ、

“ ” Bがローターアクト

と別けられました。

○インターアクトクラブとはロータリークラブが直接指導する、高校生又は14才～18才迄の青少年団体を指します。

1クラブ1アクトを持つべきであると規定されてありますので是非作っていただきたいとの要請がありました。

○ローターアクトクラブの年齢制限は18才～30才迄の青年男女であり、現在2560地区には29クラブあります。

未提唱クラブは是非作って下さるようお願いしたいとのことです。

○ライラとはロータリー青少年指導者養成プログラムであり、その目的は、

- 1、青少年指導者の素質を持つ若人に訓練と経験をつませ、その素質の向上を計り、より良きリーダーになって貰う。
- 2、若い人々とロータリアンが起居を共にして親睦を計り、広く知己を得る。そしてロータリーを理解して貰う。

ことであります。

次年度も“BE A FRIEND（友達になろう）”をテーマに9月16日より9月18日迄2泊3日で国立妙高少年自然の家にて開催されます。

各クラブ3名以上、全クラブより参加して下さい。

委員長は3日間出席出来る方で、全員登録して下さい。

その時に以下の5つの点に留意して下さい。

- ①クラブ全員の皆様に意義と目的について周知徹底して下さい。
- ②参加者にも同様に意義と目的を周知徹底して下さい。
- ③7月に参加申し込み書をただ配るだけでなくその時にも意義と目的について周知徹底して下さい。
- ④研修会参加者がいいいや参加するのではないよう配慮して下さい。
- ⑤クラブ会員の方も研修者の保護者的感覚ではなく、共に学ぶ意識をもって参加していただきたい。

以上のように要請がありました。

次年度米山奨学委員長 加藤 実さん

- 日本独自の外国人留学生の為の奨学制度である
- 日本が受けた恩（関東大震災時や終戦後の混乱期）を忘れないで今こそ世界に援助貢献しなければならない
- 奨学生を育てることにより将来は日本との掛橋になってくれる。
- 2560地区の寄付額が全国33地区中20位なのでせめてロータリー財団と同じく17位くらいまで押し上げたい。その為年間寄付額を1人1万5千円を目標にし達成をしてほしい

次年度ロータリー財団委員長 吉川吉彦さん

94～95年度R I 会長ビル・ハントレー氏のテーマはBE A FRIENDであります。ロータリー財団の役割はロータリーの綱領の内容によってより深くその意義が理解されるものと思います。R I がなかったらロータリー財団はどうなるでしょう。またロータリー財団がなかったらR I はどうなるのでしょうか。互いに切れない関係にあります。ロータリー財団のプログラムは、ロータリークラブが最も必要とされている分野の青少年育成・健康・職業環境・国際平和などの分野で重要な効果を上げる機会を提供しています。そして次年度のテーマ“友達になろう”を地元・地域・世界・愛・職場・支援・世界理解をプログラムを遂行していくことでロータリークラブの求めるところとして理解する大変意義のある地区協議会でした。

ロータリー財団セミナーはパストガバナー榎内悌三郎さん、リーダー神成肅一さん、サブリーダー小山楯夫さん、サブリーダー坂田亮一さんによって財団分科会が開催されました。

この中でパストガバナー榎内氏は現在国際的な役割は日本の場合非常に大きくなりポリオプラスでは7億520万ドルに対して日本からの寄付額は1億5千2百万ドル、ポールハリス・フェローは全世界で41万人に対して日本では7万2千人となっております。このことの日本での財団に対する理解は大きいものでありますが、さらに日本の奉仕を世界的に高める必要があります。以上のようなコメントがありました。次にリーダーによります協議にうつり、A部門の奨学金についての現況説明があり、B部門のG S E関連の協議へ進んで行くなかで、現況での問題点の提起が坂田サブリーダーよりロータリー財団の奨学金で派遣された人達の登録名簿がほとんど残っていないということです。この奨学生経験者の所在を調査し最近ようやく118名の現住所と氏名、出進校、留学先等の資料がそろってまいりましたが、まだまだ多くの体験者がいるにもかかわらず判明していない部分が多いとのことでした。

予算はまったくのゼロで発足した学友会で大変苦慮しておりますので各クラブの近くで留学体験のある方を知っておられましたら是非とも登録に協力していただき学友会に参加していただく機会を作り、若い人の人生感がいかにして今日あるかを語り合う場作りに協力してほしいとご提議がありました。これらを聞いて感じられたものは、日本人は金を出すのが口を出すことになれていない。世界的にもより日本を理解してもらおう機会を多く作る必要があるし、そのアピール方法も工夫がいいると思いました。又、せっかく選ばれて留学した立派な若い体験者が数多くおられながら、その体